

講義名	ドイツ語 / ドイツ語初級			授業形態	
担当教員	森田 一平	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

ドイツ語入門(ドイツ語)で学んだ事に積み重ねて、様々な新しい場面での表現を学び、体験学習を重ねます。ドイツ語を学ぶことはドイツとそこに暮らす人たちを知ることです。ドイツってどんな国、ドイツにはどんな歴史や文化があるのか、ドイツ人はどんなことを考えて、どんな生活を送っているのか、ドイツ語を学びながら、それらを感じ取ったり、推測したりしてみましょう。実際のドイツでの生活に使える身近な表現を学ぶと同時に文章を作っている規則を学んでいきます。

到達目標

名前、出身、住んでいる場所、職業、年齢、趣味、飲み物、食べ物、家や部屋の中の家具、事物、商店や施設の名など家生活に必要な身の回りの事物が言えるよう語彙、表現を身につける。合わせて発音のトレーニングをする。表現、語彙学習を通して名詞の性と冠詞、動詞の人称変化などの基本的文法事項の学習も進めていく。

提出課題

毎回の授業の復習として、教科書に添付されたワークシートはもちろん、教科書の内容を補うワークシートの提出が課題となります。週に一度の授業ですので、この課題提出は評価の重要なポイントとなります。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

提出物は添付ファイルでメールに添付して提出(メールテキスト本文に書かない)。添削して返却するので返却されたものは関連した箇所をチェックしておくこと。

評価の基準

授業中のグループワーク、発言など 10%
提出物 10%
筆記試験(中間試験 - 20%、期末試験 - 30%) 50%
口述試験 30%
試験では基本的に表現・語彙、文法規則などについて授業中に学んだことの成果を問う。

履修にあたっての注意・助言他

教科書は必ず購入すること。この授業で使う教科書は2020年版なので間違っても古い版を買わないように(書名とISBNを良く確認)。

教科書

『自己表現のためのドイツ語1<プラス>』	板山真由美 垣路ウルズラ 本河裕子 吉満たか	三修社	12600	9784384123036
----------------------	------------------------	-----	-------	---------------

参考図書

その他

独和辞典は必ず持っておくように。例えば アクセス独和辞典 三修社

授業計画

1. Lektion1-Lektion 5の復習 Lektion 6 題のページの語彙をまなぶ
2. Lektion 6 相手の都合、希望を問う表現、その答え
3. Lektion 6 待ち合わせ場所と決める 前置詞 場所の表現(「～で」)。
4. Lektion 6 まとめ
5. Lektion 7 過去を表現する 現在完了形
6. Lektion 7 過去を表現する 現在完了形(続き)
7. Lektion 7 文法学習 過去分詞 まとめ
8. 中間試験 口述と筆記
9. Lektion 8 ドイツのクリスマスとプレゼント クリスマス、プレゼントに関する語彙
10. Lektion 8 クリスマス ドイツのクリスマスの過ごし方! (クリスマスの)買い物 仕方の独自の表現を学ぶ。
11. Lektion 8 「～に～を贈る」の表現 文法学習 与格と対格の目的語を取る動詞。
12. Lektion 8 文法学習 人称代名詞、所有代名詞 Lektion 9 読解 ドイツの大晦日
13. Lektion 9 日本の大晦日を読む 頻度を表す表現
14. Lektion 9 文法学習 受動態(受け身)
15. 期末試験 口述と筆記

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A.L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

ペアワークを基本にしています。

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

復習を重視します。毎回2時間程度の復習が必要です。教科書の練習問題などを課題として出します。付属の音声教材を聴くだけでもドイツ語の上達につながります。新出単語を書き出すなど各自で自分に合ったいる方法を取入れましょう。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

ドイツは経済的、政治的にEU・ヨーロッパの最も重要な国の一つです。ドイツ語学習を通じて、ヨーロッパ社会への理解を深め、国際的な視点を持つことに繋がります。他者との会話を通じて実社会で必要なコミュニケーション能力、対人能力を培う良い機会とします。これらの能力は商学部に求められる言葉の動向や問題点を理解するための基礎知識・経済学部生に求められる経済にまつわる情報分析の力・人間社会学部生に求められるコミュニケーション能力の修得に役立ちます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

ペアワーク、グループワークを多用し、発音、語彙、表現、文法などを教師がチェックします。

実務経験の有無及び活用

備考

毎出席が前提。単位取得には2/3以上の出席が必要。欠席1/3未満であっても連続して欠席しないように。発音にしろ表現や語彙、文法にしろ日々の積み重ねが重要です。